

名張事件から見る再審法改正

2023.3.3 鬼頭 治雄

自己紹介

2023.3.3 鬼頭治雄

名張事件とは

1961年（昭和36年）
3月28日20時ころ

三重と奈良の県境付近の
小さな村落

現場の公民館



名張事件とは

公民館に32名が
集まって懇親会

男性には清酒
女性にはぶどう酒

現場の公民館



名張事件とは

女性 5 人が死亡
1 2 名が中毒症状

農薬「テップ剤」が
混入されていた

現場の公民館



名張事件とは

4月2日深夜、自白

3日逮捕、記者会見

起訴前、弁護人なし

起訴後、否認

奥西勝さん



名張事件とは

1964年（昭和39年）
12月23日

津地裁、無罪判決

→ 釈放

奥西勝さん



名張事件とは

1969年（昭和44年）
9月10日

名古屋高裁、逆転死刑判決

→ 再び拘置所へ

奥西勝さん



名張事件とは

1972年（昭和47年）
6月15日

最高裁、上告棄却

→ 死刑確定

奥西勝さん



確定判決（有罪判決）

- 1 王冠の傷跡 奥西さんの歯によるもの
- 2 犯行機会
ぶどう酒の会長宅到着 17時過ぎ
奥西さんには会場で一人になった10分間あり
- 3 自白は信用できる

第5次再審請求

1973年（昭和48年）10月27日
日弁連が支援を開始



第5次再審請求

1977年（昭和52年）5月18日
再審請求（第5次）

王冠の傷跡に関する新証拠など



第5次再審請求

四つ足替栓
(内蓋)



耳付き冠頭
(外蓋)

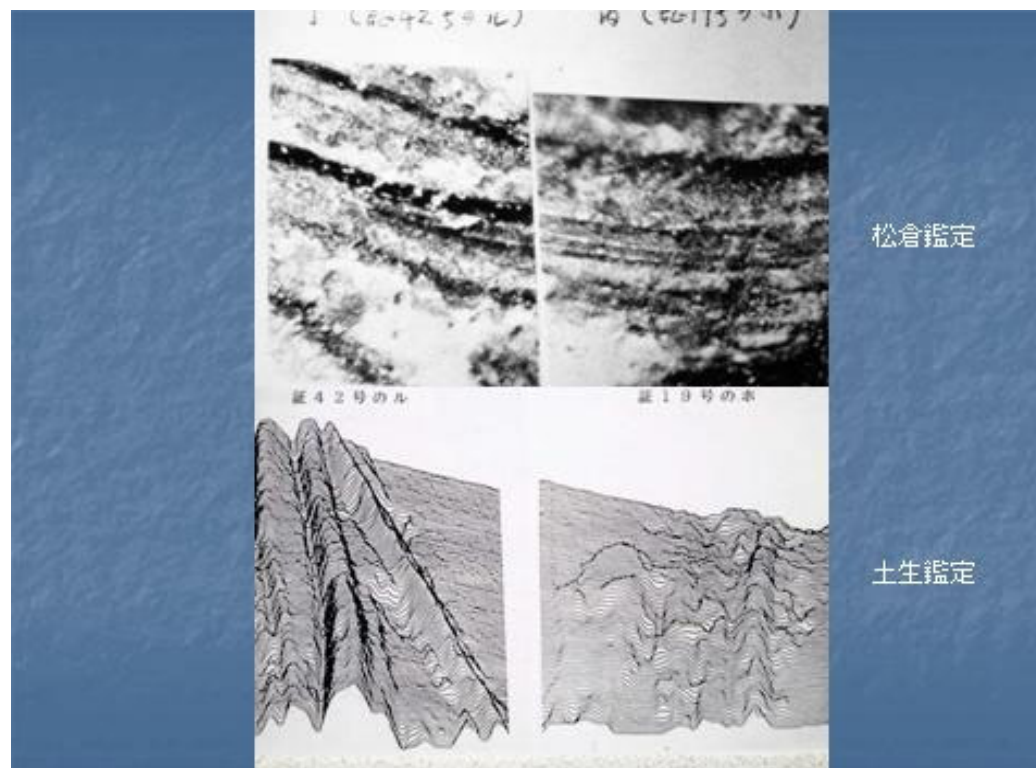


ぶどう酒の瓶



第5次再審請求

王冠の傷跡に関する新鑑定



第5次再審請求

1997年（平成9年）1月28日
最高裁、特別抗告棄却

- 1 王冠の傷跡 証拠価値は低下した
- 2 証拠物が発見された場所など
→ 他の者に犯行の機会なし
- 3 自白は信用できる

第7次再審請求

2002年（平成14年）4月10日
再審請求（第7次）

毒物に関する新証拠など



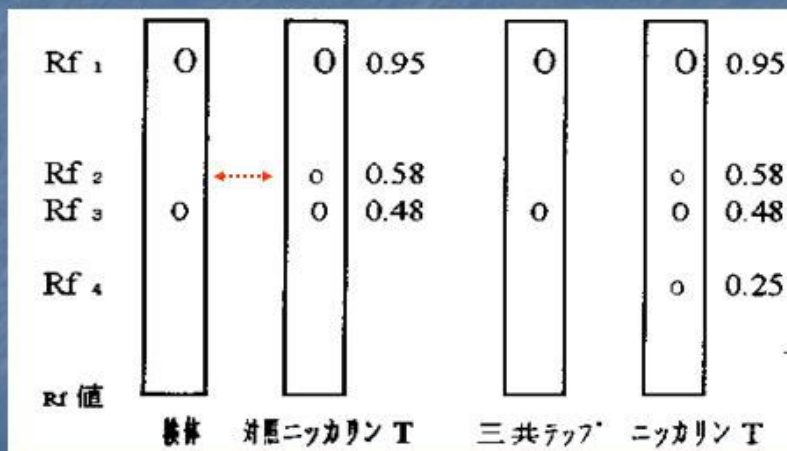
第7次再審請求

テップ剤



毒物に関する新鑑定

ペーパークロマトグラフィーによる成分分析に現れたスポットの違い



第7次再審請求

2005年（平成17年）4月5日

名古屋高裁、再審開始決定

- 1 犯行機会 傷を残さずに毒を入れることはできる
- 2 ぶどう酒の会長宅到着 16時前の可能性
- 3 毒物 ニッカリンTではない可能性
- 4 自白は信用できない

第7次再審請求

奥西さんに面会

再審開始

+

死刑の執行停止

奥西勝さん



第7次再審請求

2006年（平成18年）12月26日

名古屋高裁、取消決定

「自らが極刑となることが予想される重大事件について、このように、自ら進んで、あえて嘘の自白をするとは考えられない」

第7次再審請求

奥西さんに面会

「また、たたかってくれますね」

奥西勝さん



第7次再審請求

2010年（平成22年）4月5日

最高裁、異議審決定を取消し、高裁に差戻し

毒物鑑定について、さらに審理を尽くす必要あり

第7次再審請求

2012年（平成24年）5月25日
名古屋高裁、再審開始せず

検察官も鑑定人も指摘しない理由で証拠価値を否定

第 7 次再審請求

2 0 1 3 年（平成 2 5 年） 1 0 月 1 6 日
最高裁、特別抗告棄却



第9次再審請求

2015年（平成27年）
10月4日

奥西勝さん死去
（享年89歳）



第 1 0 次再審請求

2 0 1 5 年（平成 2 7 年） 1 1 月 6 日
再審請求（第 1 0 次）

妹が兄の遺志を引き継いで再審請求

封緘紙の糊に関する新証拠

第10次再審請求

封緘紙



ぶどう酒の瓶



第10次再審請求

封緘紙



フーリエ変換赤外分光光度計
(FTIR)

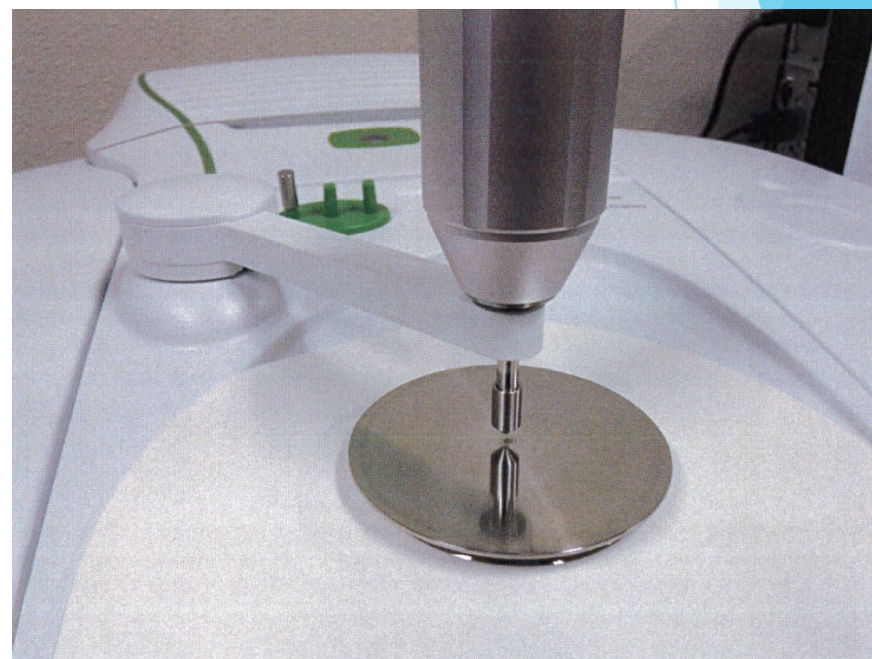


第10次再審請求

封緘紙



フーリエ変換赤外分光光度計
(FTIR)



第10次再審請求

2017年（平成29年）12月8日
名古屋高裁、再審請求棄却

2022年（令和4年）3月3日
名古屋高裁、異議申立棄却

特別抗告申立、最高裁で審理中

見えてくる問題

「疑わしきは被告人の利益に」はどこへ？

見えてくる問題

- 1 いわゆる「再審格差」
- 2 再審における証拠開示
- 3 再審開始決定に対する検察官の不服申立
- 4 再審請求手続の長期化と再審請求人の高齢化

1 いわゆる「再審格差」

再審手続に関する規定は19か条しかない

1949年の施行以来、一度も改正されていない

再審請求手続の進め方は裁判官によってまちまち

1 いわゆる「再審格差」

<名張事件の場合>

- ・ 第7次請求審 → 遠方で証人尋問
- ・ 第7次異議審 → 異議審なのに実は自白に着目
- ・ 第10次異議審 → 何もせずに放置
- ・ 第10次異議審 → 証人尋問をせず

1 いわゆる「再審格差」

手続が定められていないから「自由に」審理
→ 格差が生じる

手続を定めることで、裁判官に対してやることを明示
→ 格差が解消される

2 再審における証拠開示

刑事訴訟法には、公判前整理手続における証拠開示について定めた条文がある

再審における証拠開示について定めた条文はない

裁判所によって大きな格差が生じている

2 再審における証拠開示

＜名張事件の場合＞

- ・ ぶどう酒の会長宅到着についての村人供述
- ・ 王冠や封緘紙についての捜査記録
- ・ 高等裁判所であることの難しさ

2 再審における証拠開示

証拠は誰のものか？

通常事件と比べて「弊害」は大きいのか？

裁判所が検察官に対し開示を命じる仕組み

2 再審における証拠開示

＜日弁連の改正案＞

証拠一覧表の提出

証拠開示命令

記録・証拠品の保管・保存など

3 再審開始決定に対する検察官の不服申立

再審開始決定に対して必ずと言ってよいほど検察官が不服を申し立てる

さらに審理が続き、最高裁まで決着がつかない

3 再審開始決定に対する検察官の不服申立

<名張事件の場合>

- ・ 名古屋高裁の開始決定を名古屋高裁が取消し
→ 刑事1部と2部が逆だったら？
- ・ 検察官の異議申立理由と裁判所の取消理由
→ 結局、全面的なやり直し

3 再審開始決定に対する検察官の不服申立

再審は誰のためのものか？

検察官の役割は？

再審請求手続と再審公判の関係は？

3 再審開始決定に対する検察官の不服申立

＜日弁連の改正案＞

検察官の不服申立を禁止

4 再審請求手続の長期化と再審請求人の高齢化

再審請求手続（非公開で公判を開くかどうかを決める）

→ 長期化、肥大化

再審公判（通常の裁判と同じく公開法廷で行う）

→ 儀式的に終わることが多い

4 再審請求手続の長期化と再審請求人の高齢化

<名張事件の場合>

第5次 20年

第8次 2年

第6次 5年

第9次 奥西さん死去

第7次 11年

第10次 8年

4 再審請求手続の長期化と再審請求人の高齢化

あらためて、再審は誰のためのものか？

あらためて、再審請求手続と再審公判の関係は？

The background features abstract geometric shapes in various shades of blue. On the left, a light blue triangle points upwards. On the right, a complex arrangement of overlapping triangles in different blue tones creates a dynamic, layered effect. The central text is positioned on a white background.

再審法を改正する必要